立命館大学 化学科同窓会ニュース

＝第2号＝
編集：立命館大学化学科同窓会事務局
編集責任者：岩　橋　　清
〒603 京都市北区等持院北町56-1
立命館大学化学科内
TEL　075-463-1131
（内3635）

スタンフォード留学記

林　　隆　俊
（立命館大学教授）

一九八三年四月より一年間、本学の資金によりカリフォルニアのスタンフォード大学へ国外留学させていただきました。

アメリカはとほうもなく大きい国ですから一年間で私の見聞し得たものは、おそらくアメリカの一点に過ぎないと思います。従って、私がここで述べたことは、私の見たアメリカであり、独断と偏見に満ちていることをお許し願います。

まず、スタンフォード大学はサンフランシスコの東南約四五キロに位置しており、カリフォルニア大学のバークレー校にも近い位置にあります。北緯で云えば三十七度付近ですので、日本の福島県地方に相当するところですが、気候は非常に温暖で、日本の関西地方と比較すれば、一年中が初夏と早春だけといった感じです。天気の方も大陸的と云うか、非常に安定していて、冬が雨期で夏が乾期になります。乾期と云えば全く雨が降らず、私の滞在中五月から十月まで、一度も雨が降りませんでした。毎日晴天ですから水さえ有れば、果実が良く実り、野菜・果物の美味しいことこのうえ無しでした。

アメリカの一般の会社は週休二日制を取っていますが、日常生活関連の店は日曜日も休まない所が多く、夜の十時、十一時まで開いている所もたくさんあります。銀行のオフィスは週休二日制ですが、個人カードを利用すれば一日二十四時間、いつでも現金の出し入れができる自動窓口が完備しており、この点では日本より非常に便利です。

さて、スタンフォード大学は、立命館と同様の私立の大学で、アメリカでの名門校の一つです。創設は一八九一年ですから立命館とほぼ同じ程度の歴史をもっています。大学キャンパスの広さは八千エーカーと云われていますので、約三十二平方キロの広さになります。これでも広さの実感がわかりにくいので四角の大ききに代えると一辺が約五・七キロの正方形の広さになります。従って大学内での移動にはサイクリング車か又は自動車がなければ身動きがとれないといった、とほうもない広さです。

スタンフォード大学のシンボルになっている“フーバータワー”

学部生は日本の大学のような卒業研究を行ないませんが、博士コースの大学院生は、一般社会が週休二日制にもかかわらず、ほとんど日曜日も大学へ出て研究に励んでいます。

化学科の中心的建物

たまたま、私の滞在中に、スタンフォードの現職の化学科教授HANK・TAUBE氏が一九八三年度のノーベル化学賞にかがやきました。おかげ様で、化学科の前庭での、シャンパンの音高らかなお祝パーティーに参加できるラッキーに浴しました。化学科だけでも今までにポーリングやフローリーなどのノーベル賞学者を輩出しており、三人のノーベル賞学者が、お祝いの会場で肩を並べたのを見るのは壮観でした。スタンフォード大学の院生に取って、自分の未来の線上にノーベル賞が実在していると云う実感の中で、けんめいに研究に励んでいる姿が私の目に強く印象づけられました。

化学科紹介

化学科主任　**林　　隆俊**

立命館大学の長年の懸案であった衣笠学舎への統合も一九八一年に法学部の移転を以って完了しました。化学科におきましても現在二十名（教授八名、助教授四名および助手八名）のスタッフによる十二の研究室へと成長して、これから増々、教育・研究の一層の充実・発展へ向けて一同一丸となって精力的に取り組んでいます。具体的な取り組みの一例として、今まで募集していた化学科学生の実定員を、一九八四年度一回生から一挙に三分の一減らして百名定員に改めました。こうすることにより、本学の教育・研究の質的内容を一段と高めることを目ざしています。年々本学を受験する学生の質が向上している中で、さらに定員減による飛躍的な質の向上が期待されています。

学生の就職に関連して、同窓会の皆様方の御協力によりまして、在学生を対象に本年度六月二十七日に「化学科同窓会第一回講演会」を開催しました。その際には本学化学科同窓会のメンバーである田村季照氏、竹内良夫氏や東正弘氏などの方々に大変お世話になりましたことを付記させていただきます。

理工学部としましても、一九八六年度開設を目ざして、現在の社会的ニーズに応え得るような新学科の創設に取り組んでいます。現在の所では、募集定員百名程度の「情報工学科」（仮称）と云うことで、その準備に、全理工学部スタッフが一丸となって内容の検討を行なっています。

次に、現在の化学科における教育と研究スタッフについて簡単に紹介させていただきます。化学科では、工場技術者、セールス技術者、企業および研究所研究員、教員として化学の基礎を身につけた上、ある程度の応用・創造力をもち、あらゆる点で有能な、指導的立場に立ちうる学識経験を有するものの育成を目ざしています。

カリキュラム編成には、基礎科目を重視し、そのうえに立って展開・応用の科目を配列しています。すなわち、一・二回生から教養科目と並んで専門の基礎となる学科目・実験を十分に修得させることに努めており、四回生時における卒業研究は、グループ別の指導体制をとって、創造的研究への糸口がつかめるよう配慮されています。

化学科には、現在、純正化学課程と工業化学課程の二課程がおかれており、それぞれの課程を履修した者に対して、理学士または工学士の称号が与えられます。しかし、卒業に必要な専門科目単位数の約四分の三が共通必修科目となっており、両課程の間には大きな差異が無いといってよいでしょう。これからの学問分野では、理学と工学の境界領域に重要な問題が残されていますので、本学のような教育方針は、まさに時代の先取り的内容になっていると云えるでしょう。このような立命館大学の教育を受けた学生が、未来の社会に巣立って行く時、どのように発展して行くか大いに期待されます。

最後に、現在の化学科における研究室とそのスタッフを左記に示します。

〈無機・物理化学系〉		
岩崎研究室	岩崎弘通	助教授
鈴木　〃	鈴木啓三	教授
	澤村精治	助手
谷口　〃	谷口吉弘	助教授
松田　〃	松田二郎	教授
	小島一男	助手
山本　〃	山本善史	助教授
〈分析化学系〉		
永井研究室	永井外代士	教授
	松田十四夫	助手
高橋　〃	高橋玲爾	教授
	白石晴樹	助手
〈有機化学系〉		
杉田研究室	杉田嘉一郎	教授
	中村尚武	助手
林(隆)〃	林　隆俊	教授
	岡田　豊	助手
岡本　〃	岡本勇三	助教授
立花　〃	立花　精	教授
	塩出十一	助手
林(暁)〃	林　暁	教授
	木下恭介	助手

以上

同窓会通信

幹事会

去る六月十日(日)、午後三時より、末川記念会館会館ホールで本年度第一回の幹事会が行われた。出席者は三十五名で委任状を含め幹事会成立を確認の後、岡本副会長の提案により、吉田会長を議長に選出し議事が進められた。

まず、松田庶務幹事より、前会幹事会（昭和五十八年十月二十三日）議事録の説明後、名簿売上げ、会費納入、寄附金の応募状況、および事務局会に関する経過報告が行われた。

次に、岡本副会長より、昭和五十八年度事業報告（同窓会名簿発行、同窓会発会式、第一回事務局会、第二回事務局会、幹事会、同窓会ニュース発行など）、中村会計幹事より昭和五十八年度決算報告（同窓会会計、同窓会会員名簿出版事業会計）が、市川会計監査より会計監査の報告があわせ行われた。

引き続き岡本副会長より、昭和五十九年度事業計画および昭和五十九年度予算方針について説明があり、中村会計幹事より予算案の提案が行われ、種々討論の結果、昨年度の諸事業（会員名簿の作成、同窓会ニュースの発行・会員への通信）に加え、本年度よりあらたに在学生（三・四回生）を対象に就職に関する講演会および会員対象の科学技術セミナーを開催することになり、その運営委員長に竹内良夫氏（一部理科二十五年卒・元教員）が選出された。五十九年度会計については一般事業会計と特別事業会計の二本立てとし、名簿発行は特別事業とした。

更に、松田・谷口両幹事より、同窓会運営に関する種々の提案がなされ討議が行われた。その結果、まず、同窓会ニュース編集・発行については、庶務幹事がその任に当り、編集委員長に岩橋清氏（一部工科二十三年卒）を選出した。名簿作成に関しては、十数名の年度幹事（部別）を構成員とする名簿作成委員会がその任に当り、名簿作成委員会の委員長に岡本副会長を選出した。未納入の年度会費の徴収については、種々議論の末、暫定的に未納入分を含めない単年度請求とすることが承認された。その他、教員退職者への記念品の贈呈、会員の慶弔に関して会員死亡の場合に限り弔電を打つことが承認された。最後に、吉田会長の閉会の挨拶があり、午後五時終了した。

役員名簿

顧　　問	本島　健次	（旧教員）
	杉田嘉一郎	（現教員）
	長谷川忠男	（専門１部22年卒）
	尾池　耕三	（専門１部23年卒）
会　　長	吉田　　巌	（専門１部25年、大学１部27年卒）
副 会 長	津田　和夫	（大学１部28年卒）
	岡本　勇三	（専門１部25年、大学２部27年卒）
庶務幹事	岩橋　　清	（専門１部23年、大学１部27年卒）
	今達　禕治	（専門１部24年卒）
	東　　龍夫	（大学２部29年卒）
	小林　亀造	（大学１部33年卒）
	松田十四夫	（大学１部38年卒）
	谷口　吉弘	（大学１部40年卒）
会計幹事	服部　定治	（専門１部19年、大学２部34年卒）
	野村祐三郎	（専門１部20年卒）
	佐々木右八	（大学１部32年卒）
	山本　善史	（大学１部35年卒）
	中村　尚武	（大学１部41年卒）
会計監査	福井　　明	（専門１部20年卒）
	市川　延繁	（大学２部28年卒）

（敬称略）

役員名簿　……年度幹事……

専門学校

<一部工科>

昭和18年卒	宇佐美博三
19年卒	服部　定治
20年卒	野村祐三郎
22年卒	清水　保孝
23年卒	岩橋　　清
24年卒	志多野義夫
25年卒	石原　　進
26年卒	山田吉之介

<一部理科>

昭和20年卒	
22年卒	山田　益三
23年卒	福味　幸司
24年卒	西村　敏次
25年卒	竹内　良夫
26年卒	八木　永治

<二部理科>

昭和19年卒	奥　　　悦
20年卒	林　　幸男
22年卒	山本　徳治
23年卒	三原　才弘
24年卒	
25年卒	宇野　光達
26年卒	九鬼　敏隆

短期大学

昭和27年卒	椿　　年雄
28年卒	岡田　克己

新制大学

<二部化学科>

昭和27年卒	宇野　光達
28年卒	八木　永治
	九鬼　敏雄
29年卒	東　　龍夫
30年卒	亀田　宏章
31年卒	伊藤　侊紹
32年卒	清水　　博
33年卒	石田美野里
34年卒	上原　正已
35年卒	寺井　良平
36年卒	山本　好春
37年卒	三戸　清利
38年卒	藤井　　博
39年卒	山本　修三
40年卒	梶田　晋司
昭和41年卒	天田　健治
42年卒	加納　　修

<一部化学科>

昭和27年卒	三宅　宏和
28年卒	
29年卒	山上　　満
30年卒	元川　宏史
31年卒	香山　彰朗
32年卒	岡本　　朗
33年卒	磯野喜美子（田村）
34年卒	花沢　　明
35年卒	久保　繁夫
36年卒	佐々木　豊
	近藤　熙雄
37年卒	大谷　芳享
38年卒	秦　　　修
39年卒	北尾　舒彦
40年卒	本田　嘉一
41年卒	東　　正弘
42年卒	野田　博之
43年卒	篠原　長政
44年卒	岡村　昭信
45年卒	村上　俊男
46年卒	阿部　重典
	木村　俊久
47年卒	宮地　　淳
	白石　晴樹
48年卒	岡　　正則
49年卒	澤村　精治
50年卒	岡平　　明
	米沢　忠弘
51年卒	松本　浩一
52年卒	小島　一男
53年卒	河村　眞也
54年卒	岡田　　豊
	林　　年昭
55年卒	井口　　晃
56年卒	木戸　隆宏
57年卒	河野　宏彰
	谷本　道雄
58年卒	北河　英次
	中井　義一
59年卒	桑原　　明
	野口　　剛
	林　　利久
在校生	木本　　衛
	鶴田　直樹
	早川　　聡
	吉岡　秀樹

（なお、空欄の年度幹事は現在までに未選出です。敬称は略させていただきました。）

昭和59年度事業計画

Ⅰ　諸事業	予定年月
1）昭和59年３月卒業生名簿の作成	59. 6
2）同窓会ニュース（No.２）の発行	59. 7
3）全会員への通信（同窓会ニュース、新卒者名簿、昭和59年度会費の請求などの送付）	59. 7
4）講演会及びセミナー等の開催	
a）在校生を対象とする就職関係の講演会	59. 6
b）会員を対象とする科学技術セミナー	59. 11

Ⅱ　諸会議	予定年月
1）幹事会	
a）第１回幹事会（於；立命館大学、末川記念会館）	59. 6
b）第２回幹事会（臨時）	
2）事務局会	
a）第１回事務局会（於；立命館大学、末川記念会館）	59. 4
b）第２回事務局会（於；立命館大学、末川記念会館）	59. 6
c）第３～５回事務局会	59. 7, 59. 11, 60. 2

以　上

昭和58年度事業報告

年・月・日	場　所	事　　業
58. 5		立命館大学化学科同窓会会員名簿発行。
58. 6. 12	立命館大学清心館・存心館	立命館大学化学科同窓会発会式（含記念講演会・懇親会）。
58. 7. 24	京都私学会館	第一回事務局会。
58. 9. 3	京都府立勤労会館	第二回事務局会。
58. 10. 23	京都教育文化センター	幹事会。
58. 11. 24		同窓会ニュース（創刊号）の発行。
58. 11. 30		在校生（卒研生）への会則および名簿販売の案内配布。
58. 12		同窓会ニュース（創刊号）、昭和58年度会費の請求、および名簿販売などの案内を全会員に送付。
59. 3. 20		昭和59年３月卒業生を対象に年会費の請求、および名簿の販売。

以　上

〝第一回講演会〟開催さる！

今年度事業の第一弾として、在校生の就職活動時期に合わせた講演会が六月二十七日(水)午後一時から、衣笠学舎二号館の理工学部会議室で開催されました。当日の出席者は約七十五名でした。

岡本副会長の司会で開会され、本事業の運営委員長の竹内良夫氏（28年卒、本学元教員、元・日立マクセル㈱・研究課長）のあいさつがあり、続いて次の二つの講演が行われました。

一、「製薬工業界の現状と今後の動向」　東　正弘氏（41年卒、マルホ㈱・開発企画部長）

二、「仕事の質から見た日本の特質」　西本正樹氏（30年阪大卒、㈱京都第一科学・専務取締役）

昭和59年度予算

1．化学科同窓会一般事業会計

（収入）	
繰越金	1,414,877
会　費	1,300,000
雑収入	350,000 注1
計	3,064,877

（支出）	
人件費	200,000
印刷費	300,000
郵送費	400,000
会議費	100,000
事務局費	60,000
雑　費	60,000 注2
特別事業会計拠出金	1,400,000 注3
予備費	544,877
計	3,064,877

2．化学科同窓会特別事業会計 注3

（収入）	
一般会計繰入金	1,400,000
寄　付　金	600,000
計	2,000,000

（支出）	
予備費	2,000,000
計	2,000,000

注1．予算編成基本方針に従い、「名簿出版事業会計」、「化学科準備会会計」および「懇親会会計」の残高を含む。

注2．慶弔費を含む。

注3．特別事業会計は次回名簿出版を主目的とする。

以上

昭和58年度決算報告

（なお、支出項目名を中間報告時と一部変更しておりますのでご了承下さい。）

1．化学科同窓会会計

（収入）	
会費	1,870,210
寄付金	634,500
雑収入	46,100
計	2,550,810

（支出）	
人件費	272,400
印刷費（同窓会ニュース他）	225,000
郵送費（　〃　　〃　他）	366,390
会議費（幹事会、事務局会）	164,430
事務局費	53,123
雑　費（慶弔費）	54,590
計	1,135,933
差引残高	1,414,877

2．化学科同窓会会員名簿出版事業会計

（収入）	
売上金（含送料）	3,333,000
広告代	610,000
計	3,943,000

（支出）	
名簿作成費	3,015,000
〃　〃　事務費	510,400
〃　送料	270,930
計	3,796,330
差引残高	146,670

3．化学科同窓会準備会会計（同窓会ニュース創刊号参照）

残　高	167,059

4．化学科同窓会懇親会（1983.6.12）会計（同窓会ニュース創刊号参照）

残　高	20,815

以上